

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 環境政策課 ☎24-5257

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		11/29~12/6	12/6~12/13
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.019
	南相馬市就業 改善センター (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.013
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.034
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.020
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.030
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	
		11/29~12/6	12/6~12/13
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.014
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定毎に変動します。放射能濃度の値が検出限界値未満の場合には、「不検出」とされます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

新型コロナウイルスも感染症法上、インフルエンザと同じ5類扱いとなり、この年末・年始は新たな気持ちで迎えられたことと思います。最近の1年間の大気浮遊じんに含まれる放射線量は、バックグラウンド値(自然の放射線量)と区別ができないほど小さいものでしたので、ご安心ください。